



ISO/TC314 高齢社会 2024 年次フォーラム

Sustainable and High-Quality Care: Lessons from Practices around the World

持続可能で質の高い介護とは？ — 世界に学ぶ好事例 —

2024年11月26日(火) 20:00-22:30 (日本時間)

参加無料 オンライン(日本語同時通訳) 事前登録制: <https://jssk-iso.peatix.com/>



介護の質をどのように評価し、向上させるべきでしょうか？

世界的に高齢化が進んでいます。介護施設や在宅における介護サービスを必要とする人口が増加する一方、介護サービスに従事する人の数は減少しています。

このような環境下、どのようにすれば、質の高い介護サービスを提供し続けられるのでしょうか？

本フォーラムでは、世界各国の優れた実践事例を紹介しながら、介護の質と持続可能性に関する課題について議論します。

プログラム

20:00-20:05	開会の辞 アン・リビングストーン氏(オーストラリア)
20:05-20:20	本日のテーマ: ISO/TC314/WG 8 高齢社会/ケアについて ステファン・ルンドベルグ氏(スウェーデン)
20:20-20:35	基調講演 “高齢者介護における質の保証と向上” 吉田 修 厚生労働省 審議官(日本)
20:35-21:45	主題: “介護の質とは?—さまざまなステークホルダーからの視点” モデレーター: 山田 肇 東洋大学 名誉教授(日本) セッション1: 介護を受ける方とご家族、彼らを取り巻く環境 “高齢者にとっての質の高いケアとは?” パトリシア・スパロウ氏(オーストラリア) “カナダにおける報酬を得ることのない介護者” アリソン・M・ウィリアムズ氏(カナダ) “認知症フレンドリーな歯科と認知症サポートが果たす役割” イアン・ケネス・グラント・シェリフ氏(イギリス) 質疑応答 セッション2: 介護事業(介護事業者および監査機関) “適切でタイムリーなパーソン・センタード・ケアを提供する上での課題” ペ・キム・チュウ氏(シンガポール) “介護の質の向上と連携を支える標準の開発” ケビン・グルームブリッジ氏(イギリス) 質疑応答
21:45-22:25	パネルディスカッション モデレーター: 産業技術総合研究所 情報・人間工学領域 副領域長 佐藤 洋氏(日本) パネリスト: 吉田 修 審議官(日本)、アリソン・M・ウィリアムズ氏(カナダ)、 イアン・ケネス・グラント・シェリフ氏、ケビン・グルームブリッジ氏(イギリス)
22:25-22:30	閉会の辞 ブリッタ・ベルゲ氏(アメリカ)

主催: ISO/TC314 高齢社会

登壇者紹介 (登壇順)

開会の辞



アン・リビングストーン氏 (オーストラリア)

ISO/TC314/TG2 議長

Executive Director, Global Community Resourcing

アン・リビングストーン氏は、2010年よりグローバル・コミュニティ・リソーシングのプロジェクト・リサーチ担当ディレクターとして、地域医療・ケアの国内外のプロジェクトに携わっている。35年以上の経験を持ち、サービス管理、政策改革、調査など幅広く活躍。現在、ISO/IEC Joint Working Group on Inclusive Living in Smart Homes および ISO Technical Committee 314 on Ageing Societies Communications Groupの国際共同議長を務める。また、the Community Care Smart Assistive Technologies Collaborativeの議長も務める。

それ以前は、オーストラリア高齢者介護産業技術評議会の役員およびプロジェクト・リーダーを務め、2024年7月まで□□□□□を務めた。コミュニティケアのイノベーションを推進した功績により、2018年にNational Hall of Fameの殿堂入りを果たし、2024年のInside Ageing Future of Ageing Awardsでは最終選考に残った。ハーバード大学とマサチューセッツ工科大学からデジタルトランスフォーメーションと戦略的技術ロードマッピングのエグゼクティブ資格を取得。

本日のテーマ



ステファン・ルンドベルグ氏(スウェーデン)

ISO/TC314/WG8 高齢社会/ケア 共同議長

スウェーデン消費者協会

ステファン・ルンドベルグ氏はスウェーデン消費者協会の代表を務めるとともにISO/TC314/WG8 の共同議長およびサポートチームの役割を担っている。CEN/TC449「高齢者ケアと支援の質」の議長を務め、CEN/TS17500:2021を作成。ISO/TC314 Ageing SocietiesとWG 1の形成の出発点となったIWA 18:2016 Framework for integrated community-based life-long health and care servicesを開発。ISO/TC314/WG4「コミュニティにおけるウェルビーイング促進のためのガイドライン」策定に関与。

1999年よりハンドボールチームのチームリーダーとして非営利セクターに携わり、2002年よりサンナダル・ハンドボールクラブの幹事兼理事を務める。ストックホルム大学で社会学を専攻し、心理学を副専攻して卒業した。また、精神医学を専門とする看護学の学位も取得。

基調講演



吉田 修 氏 (日本)

厚生労働省 審議官

大臣官房審議官（高齢者・障害者福祉担当）の吉田修氏は、介護保険制度をはじめとする障害者福祉政策を担当。厚生労働省入省以前は、大蔵省で30年近く国家予算編成、国債発行、国際金融などを担当。国土交通省では、バリアフリー法の制定に携わる。東京大学法学部卒業、コロンビア大学公共政策・行政学修士。

主題：“介護の質とは？—さまざまなステークホルダーからの視点”



モデレーター

山田 肇氏 (日本)
東洋大学 名誉教授

ISO/TC314 高齢社会 日本代表
IEC SyC AAL 国際幹事

セッション1. 介護を受ける方とそこご家族、彼らを取り巻く環境



パトリシア・スパロウ氏 (オーストラリア)

COTA オーストラリア 最高経営責任者

パトリシア・スパロウ氏は、オーストラリアの50歳以上の高齢者を代表する慈善団体COTA Australiaの最高責任者として、オーストラリアの高齢者の権利擁護に尽力している。コミュニティ・サービス、高齢者ケア、医療、政策提言の分野で20年以上のキャリアを持ち、高齢者差別の撤廃と高齢者の生活の質の向上に尽力している。パトリシアは、在宅介護における初期のボランティア活動で活躍し、その経験が後の高齢者の選択と意思決定を拡大するための高齢者介護制度改革で見せた情熱につながっている。非営利団体、政府、閣僚を歴任し、高齢の家族を支えた経験から個人的にも高齢者介護の課題を理解している。パトリシアのCOTAに対するビジョンには、年齢差別との闘い、住宅環境の改善、特にオーストラリアの高齢者に対する職場差別への取り組みが含まれる。彼女は、高齢者が社会にもたらず価値を尊重する包括的な政策変更を強く支持しており、高齢者介護制度の改善を目指すイニシアチブを推進し続けている。



アリソン・M・ウィリアムズ氏 (カナダ)

マクマスター大学 教授

アリソン・ウィリアムズ氏は、マクマスター大学地球環境社会学部教授で、カナダ保健科学アカデミーのフェロー。健康地理学者として訓練を受け、現在は複数年にわたるCIHR/SSHRC Healthy Productive Work Partnership Grantを率い、雇用主がCSA Carer-Inclusive and Accommodating Organizations StandardやISO 25551 Ageing Societies Standardを採用できるよう支援している。この活動は、ワークライフバランス、従業員の定着率、自律性を向上させ、同時に健康保険コストを削減することを目的としている。政策と実践の変革の強力な支持者であるウィリアムズ博士の研究は、国内外で介護者に優しい職場政策に貢献している。以前は、ジェンダー・仕事・健康のCIHR研究チェアを務め(2013-2019年)、無報酬介護者の健康に関する研究でいくつかの名誉ある賞を受賞した。CIHR ICE Grantを含む大規模な学際的プロジェクトを率い、20人以上の研修生を指導し、60以上の査読付き出版物とカナダ国内外での100以上のプレゼンテーションに貢献している。



イアン・ケネス・グラント・シェリフ氏(イギリス)

プリマス大学 保健学部 認知症学術パートナーシップ代表

イアン・シェリフ博士は、英国首相の認知症フレンドリーコミュニティチャレンジグループのメンバーであり、イングランド南部および南西部の議長を務める。元アルツハイマー協会の理事であり、現在は同協会のナショナルアンバサダーとして活動中である。プリマス認知症アライアンスの創設メンバーであり、首相主導の農村地域認知症グループや国家航空輸送障害グループなど、いくつかの国内グループの議長を務めている。また、14回にわたりプリマス国際認知症会議を主導し、プリマス市が「認知症フレンドリー都市オブ・ザ・イヤー」を受賞する立役者となった。ウクライナ、中国、日本などの国々の研究者と認知症プロジェクトで協力し、主要な国際会議で基調講演も行っている。2024年にはクラブで開催されるアルツハイマー病国際会議で基調講演を行う予定であり、認知症インクルーシブコミュニティに関する国際基準の策定にも貢献している。

セッション2. 介護事業 (介護事業者および監査機関)



ペ・キム・チュウ氏 (シンガポール)
Tsao 財団 最高経営責任者 (CEO)

高齢者ケア分野で30年以上の経験を持ち、人口動態が変化する中、高齢者が健康で充実した生活を送ることができるよう、個人、社会、システムの各レベルで支援を行っている。ソーシャルワーカー、カウンセリング・セラピスト、臨床スーパーバイザーとして訓練を受け、プライマリ・ケア、在宅医療、心理社会的ケア、地域在住高齢者のケア・マネジメントのスキルを身につけた。また、シンガポールおよび近隣諸国における高齢者ケアの専門家向け研修コースの開発と実施を主導。Tsao財団の最高経営責任者 (CEO) として、直接ケア、研修、協力、研究、アドボカシーなどのイニシアチブを率先し、高齢者体験の向上と体系的な変革を推進。健康、学習、高齢化を促進する地域全体の統合システムを構築するため、ワンポアベースのプロジェクトを指揮。現在は会長室のシニア・アドバイザーとして、アジア開発銀行やUNESCAPとのパートナーシップによる長期ケア政策の実施など、財団の地域ポートフォリオを支援している。



ケビン・グルームブリッジ氏 (イギリス)
ヘルスケア・マネージメント・ソリューション 会長
ケア・インスペクションUK 最高経営責任者

ケビン・グルームブリッジ氏は、正看護師として訓練を受けた後、心理学と法律を学んだ。臨床家として成功した後、3カ国でヘルスケアとソーシャルケアの上級管理職として経験を積む。現在、介護施設グループ会社と経営支援コンサルタント会社を共同経営し、成功を収めている。2016年、英国唯一のケアホームの登録検査機関を設立。介護施設の継続的改善を支援するためのエビデンスに基づく検査手法の開発に尽力。学術的な研究テーマは、統合されたエビデンスに基づくシステムによるケアの質の向上。成人向け住宅ケアの規格BS806:2019を開発・発行したグループを率いる。ISO/TC314/WG8 高齢社会/ケアを招集し、国際規格ISO25557「在宅および居住施設における高齢者ケア」を策定中。

パネルディスカッション

モデレーター



佐藤 洋氏 (日本)

(国研)産業技術総合研究所 情報・人間工学領域 副領域長

ISO/TC 314/WG 4 高齢社会／ウェルビーイング 議長

ISO/TC159 人間工学 国内委員会委員長

ISO/TC43/SC2 建築音響 国内委員会委員長



吉田 修氏
(日本)



アリソン・M・
ウィリアムズ氏
(カナダ)



イアン・ケネス・
グラント・シェリフ氏
(イギリス)



ペ・キム・チュウ氏
(シンガポール)



ケビン・
グルームブリッジ氏
(イギリス)

閉会の辞



ブリッタ・ベルゲ氏 (アメリカ)

AARP 副会長兼政策・戦略・国際問題担当主任

ブリッタ・ベルゲ氏は、高齢になっても生き方を選択できるようにする非営利団体AARPの副会長兼政策・戦略・国際問題担当主任 (PRI)。比較医療政策、グローバル・エイジング、プログラム管理、戦略的運営を専門とする。ISO/TC314 高齢社会の国際議長として、世界的な高齢化の課題に対応する国際規格開発の取り組みを主導。非営利セクター (国際・国内)、公共セクター (州・地方レベル)、民間セクターを横断し、幅広い経験を生かして活躍している。

ボランティア活動にも積極的で、海外でも地元でも貢献している。ベルゲは、高齢者を大切にする社会的に連携のとれた持続可能なコミュニティづくりに取り組む非営利団体IBASHOの理事を務めている。ユタ州立大学で国際学と政治学の学位を取得し、ジョージ・メイソン大学で行政学修士号を取得。